

優れた投資とは、優れたビジネスを見抜くことだ。

## アライアンス・バーン斯坦・米国割安株投信

(年2回決算型)(隔月決算・予想分配金提示型)

愛称: プレミアバリュー

追加型投信／海外／株式

### 特別レポート



## 「相場の牽引役が広がりつつある米国株市場、バリュー株に再評価の波」

### バリュー株式に変化の兆し

- 足元の米国株式市場では、バリュー株指数が上昇、グロース株指数を上回るリターン
- 2026年の1株当たり利益（EPS）成長率を見ると、マグニフィセント・セブン（M7※）を含むセクターの増益率は高水準ながら伸びが鈍化する一方、M7以外のセクターでは増益率の改善が目立つ
- セクター別のリターンでは、ヘルスケアや資本財等が足元上昇しておりバリュー株に復調の動き



### バリュー株“追い風”の兆しが明確に

指標の集中度、M7増益率のモメンタム鈍化とM7以外のセクターの増益率加速が背景

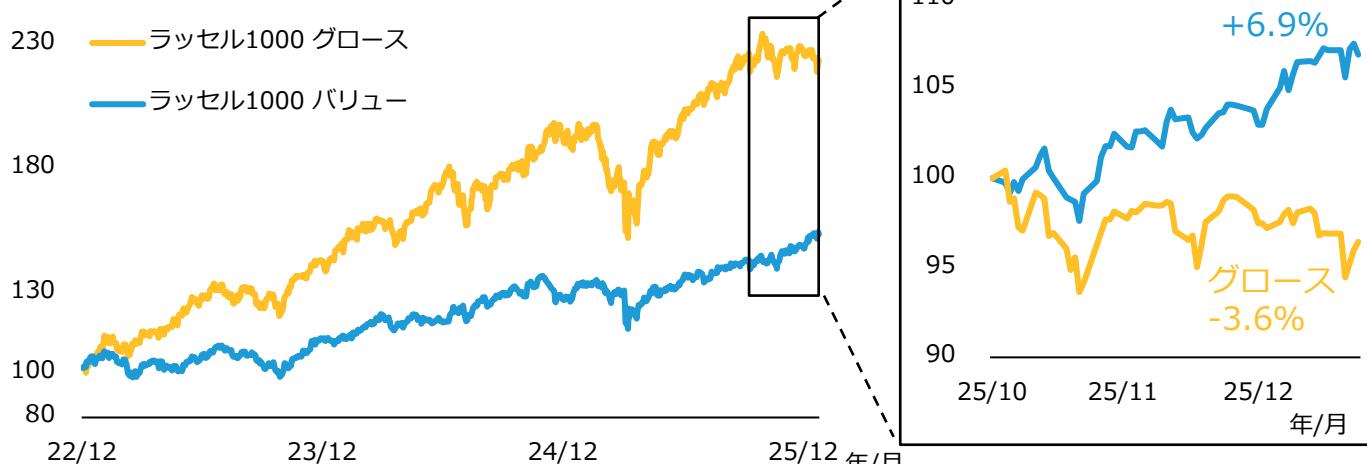
2025年10月末から足元にかけて、米国株式市場では**バリュー株指数がグロース株指数を上回って推移**しています。背景には、過去数年にわたって指数を押し上げてきた“メガキャップ集中”への警戒が強まっている点が挙げられます。ここ2~3年はM7集中が進行したもの、直近ではM7の増益率のモメンタムが落ち着く一方、幅広いセクターで増益率の改善がみられ、投資家の関心が“M7以外”へと広がる可能性も示唆されています。そのなかでバリュー株は、特定のテーマに過度に影響されにくいなか、再評価してきたものとみられます。**市場が“集中”から“広がり”へと視点を移しつつある今こそ、バリュー株に注目いただく好機**と考えています。

※M7は、アップル、マイクロソフト、アルファベット、アマゾン・ドット・コム、メタ・プラットフォームズ、エヌビディア、テスラの7銘柄を指します。

【期間：2025年10月31日-2026年1月23日】

2025年10月末を100として指数化

### 米国株式の指標別リターンの推移



期間：2022年12月31日-2026年1月23日。2022年12月末を100として指数化。いずれも日次ベース。米ドルベース。配当込みベース。出所：ファクトセット、アライアンス・バーン斯坦（以下、「AB」）。アライアンス・バーン斯坦・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーン斯坦株式会社は、ABの日本拠点です。）

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

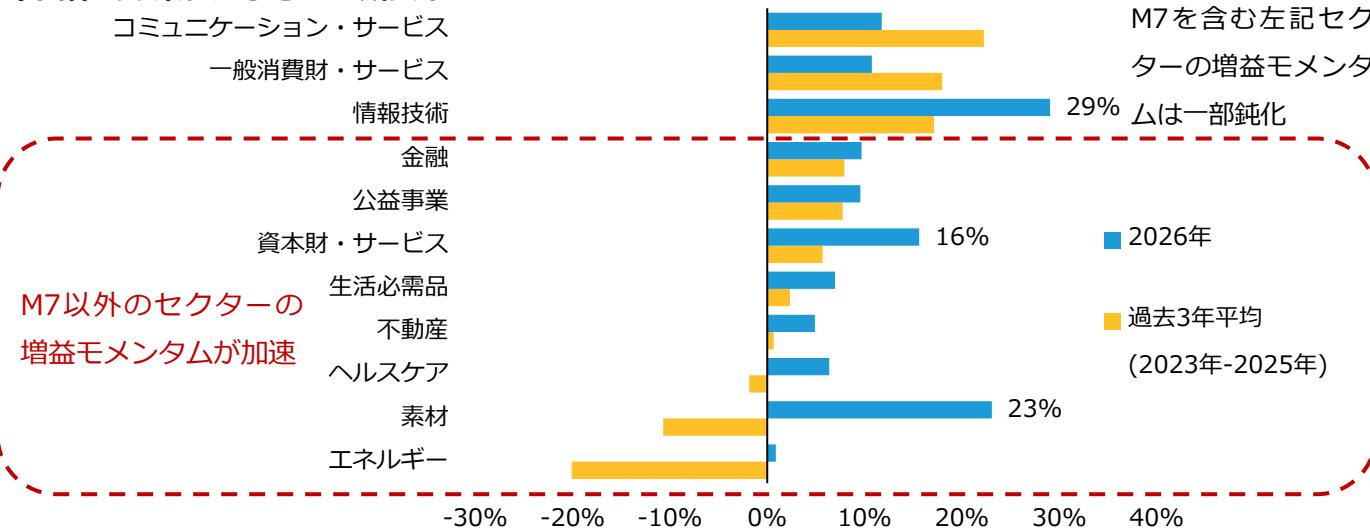


## M7以外のセクターの増益率が加速し、相場の牽引役が広がる局面へ

拡がるセクター分散の潮流とその兆し

米国株式市場では、2026年にかけて、M7以外のセクターで増益率の改善が顕著となり、**物色対象が“AI大手中心”から“より幅広い業種”へと広がりつつあります。**過去数年にわたり相場を牽引してきたM7は、AI関連需要を背景に高成長を続けてきましたが、**増益率は落ち着き**始めています。

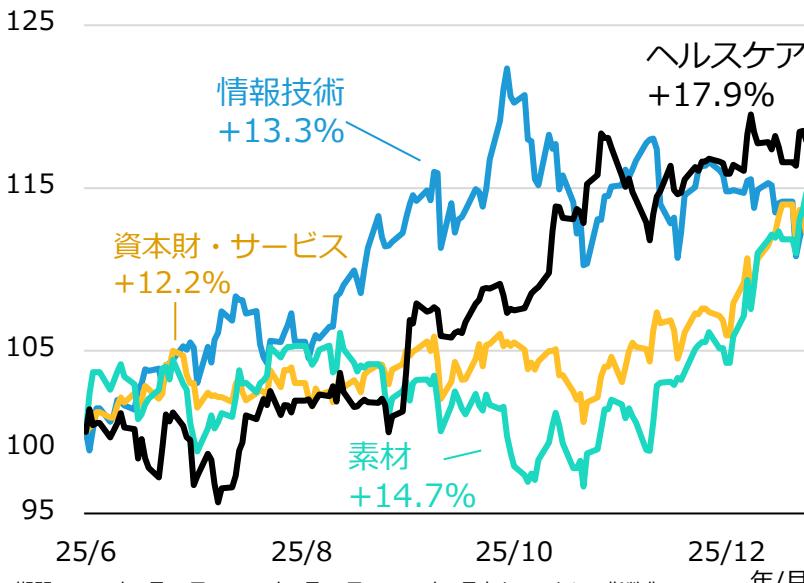
### 米国株式の業種別予想EPS成長率\*



\*2026年は2026年1月23日時点のファクトセットコンセンサス予想。過去3年平均は2023年-2025年の年平均成長率。米国株式はS&P500株価指数。  
出所：ファクトセット、AB

2026年通年の増益率（アナリスト予想）は情報技術が29%と依然トップですが、**素材（23%）、資本財・サービス（16%）とM7以外のセクターも力強い回復を示しており、投資資金の分散が進む可能性**が高まっています。背景には、米国で進む金融緩和がもたらす景気刺激効果により、シクリカル（景気敏感）セクターを含む幅広い産業のファンダメンタルズ改善につながる点が挙げられます。特に資本財は、AI関連のデータセンター建設や電力インフラ整備を追い風に、企業の投資需要が旺盛です。

### 米国株式（S&P500株価指数）の業種別リターン推移



期間：2025年6月30日 - 2026年1月23日。2025年6月末を100として指標化。

日次ベース。出所：ファクトセット、AB

また、**ヘルスケアは安定成長と防御力を兼ね備えた注目分野**で、高齢化や医療需要の構造的拡大に加え、AI活用による創薬効率化や遠隔医療の普及といった成長機会が豊富にあります。こうした業種の株価は昨年下期から底堅く推移し、ヘルスケアや資本財・サービスは10%以上の上昇率を記録しています。こうした流れから、これまで注目度が相対的に低かったセクターが再評価されやすい環境となり、素材・資本財・サービス、ヘルスケアといった分野で選別的な投資機会が広がりつつあります。

過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。

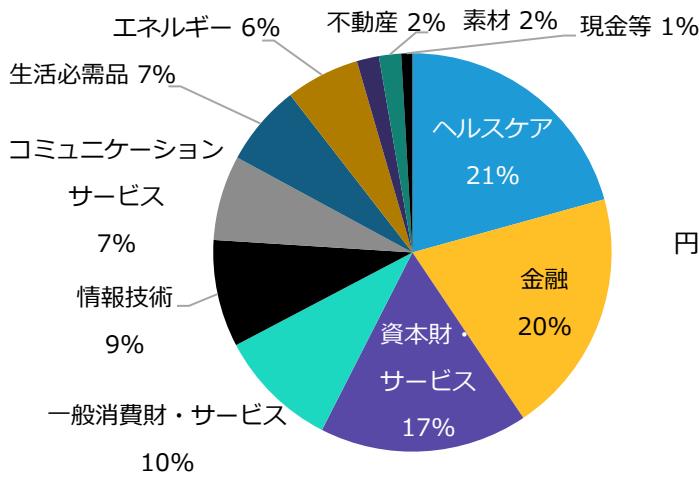


## 2025年末における当ファンドの運用状況

セクター別ではヘルスケアや金融、資本財・サービスが保有上位

当ファンドは2023年6月の設定以来、米国株式市場の変動局面を乗り越え、リターンを積み上げてきました。背景には、**優れたビジネスを有しながら魅力的な株価水準にある“プレミアバリュー企業”を厳選して投資**してきた点があります。指数が一部大型銘柄に集中する環境下でも、当ファンドはヘルスケア・金融・資本財・サービスなど安定した収益基盤を持つ企業を中心にポートフォリオを構築しており、**こうした企業の株価水準（バリュエーション）が見直される余地があると考えています。**

### マザーファンドのセクター別比率(2025年末時点)\*



### 設定来の当ファンド(年2回決算型)の基準価額の推移(1万口当たり)\*\*



\*組入比率は、対純資産総額の比率です。小数点第1位を四捨五入しています。\*\*期間：2023年6月16日（設定日）～2026年1月23日。円ベース。運用管理費用（信託報酬）控除後。上記のグラフ中の基準価額（分配金（課税前）再投資）は、課税前分配金を決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合のパフォーマンスを示しています。税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。マザーファンドは「アライアンス・バーンスタイン・米国割安株マザーファンド」。出所：AB

### マザーファンドの組入上位10銘柄

2025年12月末時点

保有銘柄数：74銘柄

	銘柄名	セクター	概要	比率
1	ジョンソン・エンド・ジョンソン	ヘルスケア	ヘルスケア製品メーカー	4.9%
2	JPモルガン・チェース	金融	世界有数のグローバル総合金融サービス会社	4.9%
3	バークシャー・ハサウェイ	金融	多様な事業を傘下に持つ世界最大級の投資持株会社	3.9%
4	RTX	資本財・サービス	航空宇宙・防衛会社	3.6%
5	アルファベット	コミュニケーション・サービス	Googleを傘下に持つ持株会社	2.7%
6	シスコシステムズ	情報技術	世界最大級のネットワーク機器メーカー	2.6%
7	ウォルマート	生活必需品	世界最大級の小売企業	2.5%
8	シティグループ	金融	世界有数のグローバル総合金融サービス会社	2.5%
9	フィリップ・モリス・インターナショナル	生活必需品	世界最大のたばこメーカー	2.5%
10	ウェルズ・ファーゴ	金融	住宅ローンやリテールバンキングに強みを持つ米国大手銀行	2.2%
上位10銘柄合計				32.2%

セクターは、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard (GICS) の分類で区分しています。組入比率は、対純資産総額の比率です。小数点第2位を四捨五入しています。同一発行体で種類の異なる株式の比率は合算しています。マザーファンドは「アライアンス・バーンスタイン・米国割安株マザーファンド」。出所：AB

過去の実績や分析は将来的な成果等を示唆・保証するものではありません。予想は今後変更される可能性があります。記載の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また組入れを示唆・保証するものではありません。



## 運用者の着眼点 ～保有銘柄事例～



魅力的な株価水準  
収益性も安定



成長性、収益性  
共に魅力的な水準

### RTX (資本財・サービス)

#### 【企業概要】

航空宇宙・防衛分野の大手企業で、航空機システム、ジェットエンジン、防衛用ミサイルやレーダーを開発・製造し、商業航空と防衛市場に幅広く展開



#### 【運用者の着眼点】

- ✓ 商用航空と防衛の両市場にまたがる事業ポートフォリオを背景に、商用航空回復と防衛需要拡大が中長期的な成長の柱
- ✓ 欧州の防衛費増加が防衛事業の追い風
- ✓ 厚い受注残に支えられた高い業績可視性に加え、アフターマーケット拡大や防空・ミサイル防衛分野の需要増による収益成長余地を評価

### チャールズ・リバー・ラボラトリーズ (ヘルスケア)

#### 【企業概要】

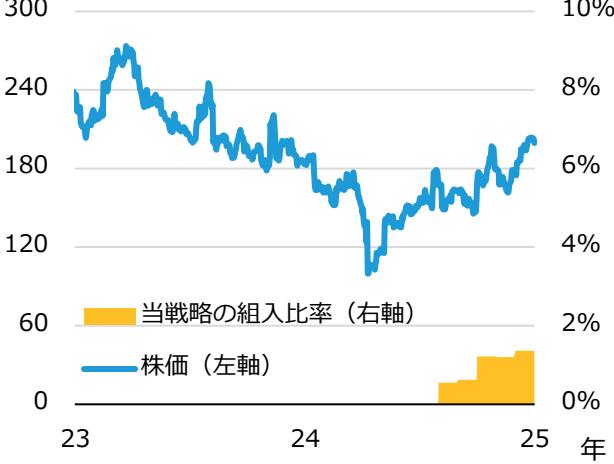
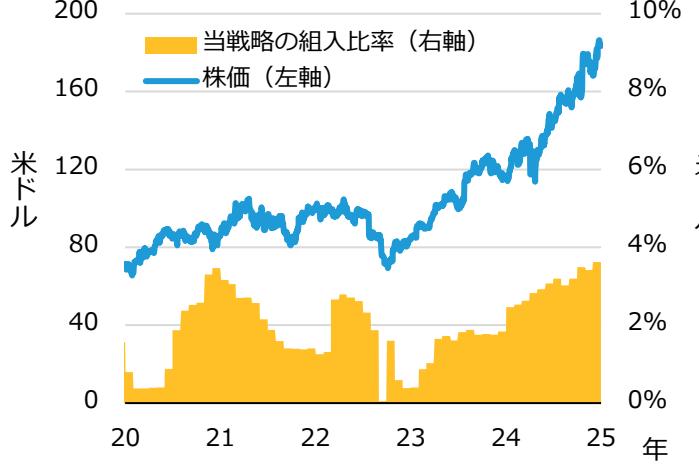
創薬初期から非臨床開発、先端治療（細胞・遺伝子治療）製造までを支援する、グローバルなCRO（医薬品開発受託機関）



#### 【運用者の着眼点】

- ✓ 複雑化する創薬プロセスにより、創薬の外部委託（アウトソーシング）が加速
- ✓ コロナ後や利上げ局面で低迷していたバイオ資金調達は改善傾向
- ✓ バイオ資金調達の回復兆しを背景に、研究開発アウトソーシング拡大の恩恵を再び取り込むと判断し投資開始

### チャールズ・リバー・ラボラトリーズの株価 および保有比率の推移\*\*



当戦略の組入比率は、当戦略の代表口座のものであり、当ファンドの組入比率ではありません。画像はイメージです。\*期間：2020年12月31日 - 2025年12月31日。\*\*期間：2023年12月31日 - 2025年12月31日。いずれも米ドルベース。株価は日次ベース。当戦略の組入比率は、当戦略の代表口座の対組入株式評価額合計の比率。月次ベース。出所：ファクトセット、AB

## 当ファンドの分配方針

### (年2回決算型の場合)

原則として、毎決算時(毎年5月15日および11月15日。休業日の場合は翌営業日)に、以下の方針に基づき分配します。

### (隔月決算・予想分配金提示型の場合)

原則として、毎決算時(毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各15日。休業日の場合は翌営業日)に、以下の方針に基づき分配します。

- 計算期末の前営業日の基準価額に応じて、以下の金額の分配を目指します。

毎計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上 12,000円未満	200円
12,000円以上 13,000円未満	300円
13,000円以上 14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
  - 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。
- ※ 每計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等、基準価額水準や市場動向等によっては、委託会社の判断で上記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。
- ※ 基準価額に応じて 分配金額は変動します。基準価額が上記の一定水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- ※ 分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。
- ※ 分配方針の詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 当ファンドの主なリスク

当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組入れられた金融商品等の値動き(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

### 基準価額の変動要因

#### 株価変動リスク

経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響で株価が変動し、損失を被るリスクがあります。

#### 為替変動リスク

実質的な組入外貨建資産については、為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替相場の変動の影響を受けます。

#### 信用リスク

投資対象金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被るリスクがあります。また、金融商品等の取引相手方に債務不履行が生じた場合等には、損失を被るリスクがあります。

#### カントリー・リスク

発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。

#### 他のベビーファンドの設定・解約等に伴う基準価額の変動リスク

当ファンドが投資対象とするマザーファンドと同じく投資対象とする他のベビーファンドでの設定・解約等に伴うマザーファンドでの組入金融商品等の売買等が生じた場合、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

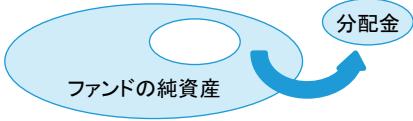
※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 「相場の牽引役が広がりつつある米国株市場、バリュー株に再評価の波」

## 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

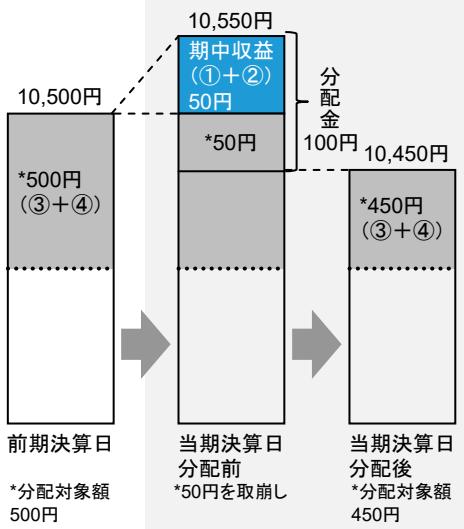
ファンドで分配金が  
支払われるイメージ



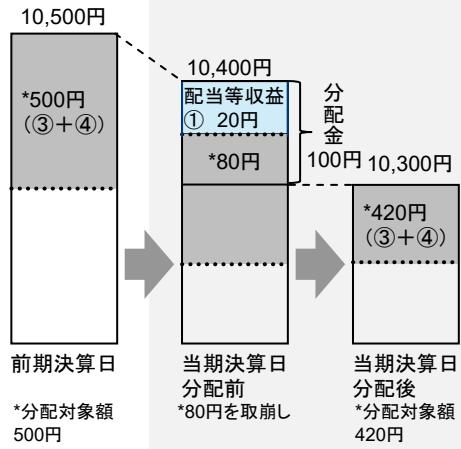
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの收益率を示すものではありません。

## (計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

## (前期決算日から基準価額が上昇した場合)



## (前期決算日から基準価額が下落した場合)



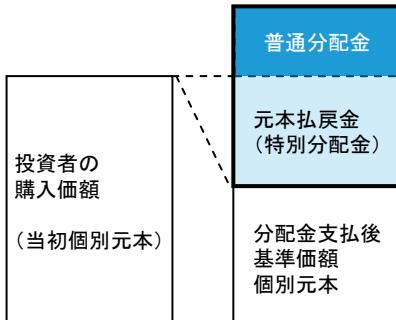
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

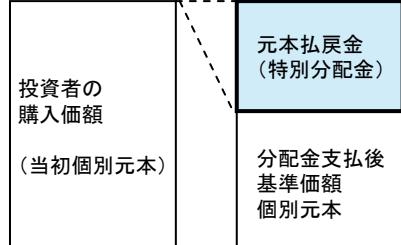
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## (分配金の一部が元本の一部戻しに相当する場合)

## (分配金の全部が元本の一部戻しに相当する場合)



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。



普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 「相場の牽引役が広がりつつある米国株市場、バリュー株に再評価の波」

## 当ファンドのお申込みメモ

購入および換金 申込締切時間	ニューヨーク証券取引所の休業日には、購入および換金のお申込みはできません。 原則、購入・換金のお申込みにかかる、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものをお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みには制限を設ける場合があります。
課税関係	個人の場合、原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングによる換金を含みます。)および償還時の譲渡益に対して課税されます。課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。当ファンドは、「NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。配当控除および益金不算入制度の適用はありません。税法が改正された場合等には、内容が変更になる場合があります。

## お客様にご負担いただく費用

お客様には下記の費用の合計額をご負担いただきます。なお、下記の費用は、お客様が当ファンドを保有される期間等に応じて異なるものが含まれているため、合計額を表示することができません。

### 直接的にご負担いただく費用

購入時手数料	購入価額と購入口数を乗じて得た金額に、販売会社が別に定める購入時手数料率( <u>3.3%(税抜3.0%)を上限</u> とします。)を乗じて得た額とします。
信託財産留保額	ありません。

### 信託財産で間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して <u>年1.6797%(税抜年1.527%)</u> の率を乗じて得た額とします。 ※マザーファンドの投資顧問会社の報酬は、委託会社の受取る報酬の中から支払われます。
その他の費用・手数料	※ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支払われます。
	●金融商品等の売買委託手数料／外貨建資産の保管等に要する費用／信託財産に関する租税／信託事務の処理に要する諸費用等 ※お客様の保有期間中その都度かかります。なお、これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示できません。
	●監査費用／法定書類関係費用／計理業務関係費用／受益権の管理事務に係る費用等 ※純資産総額に対して年0.1%(税込)の率を上限として、信託財産より間接的にご負担いただく場合があります。これらに該当する業務を委託する場合は、その委託費用を含みます。かかる諸費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から委託会社に対して支払われます。

### ファンドの主な関係法人

・委託会社 (ファンドの運用の指図を行う者)	アライアンス・バーンスタイン株式会社 <a href="http://www.alliancebernstein.co.jp">www.alliancebernstein.co.jp</a>
・投資顧問会社 (マザーファンドの運用の委託先)	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー、 アライアンス・バーンスタイン・リミテッド、 アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッド、 アライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド
・受託会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行う者)	三菱UFJ信託銀行株式会社

## 当資料のご利用にあたっての留意事項

- 投資信託は預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料は情報の提供を目的としてアライアンス・バーンスタイン株式会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料に記載された意見・見通しは作成時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、見通しの実現を保証するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあります。当資料で使用している指標等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指標等の開発元または公表元に帰属します。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの收益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 当ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社において投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時に渡しますので、必ずお受取りになり、記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。

## 販売会社

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

### ■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号	●		●	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第67号	●	●	●	
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	●			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第44号	●		●	●
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券、 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	●		●	
株式会社きらやか銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第15号	●			
株式会社佐賀銀行	登録金融機関 福岡財務局長(登金)第1号	●		●	
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号	●			
株式会社莊内銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第6号	●			
株式会社常陽銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第45号	●		●	
株式会社スマートプラス	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第3031号	●	●		●
大和証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第108号	●	●	●	●
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号	●			
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号	●		●	
株式会社東京スター銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第579号	●		●	
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号	●			
株式会社北都銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第10号	●			
株式会社北陸銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第3号	●		●	
松井証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第164号	●		●	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第165号	●	●	●	●
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第61号	●	●	●	●
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	●		●	●
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	●		●	●
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	●	●	●	
三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第2336号	●	●	●	●
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第181号	●	●		
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第105号	●			●
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 登録金融機関 関東財務局長(金商)第195号	●	●	●	●

※取次販売会社を含みます。

※販売会社によっては、一部コースのみのお取り扱いとなります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(50音順)

### ■設定・運用は

## アライアンス・バーンスタイン

【商号等】アライアンス・バーンスタイン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／日本証券業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当ファンドの  
最新情報は  
こちら

